

連合音楽会(4年)

11月12日(水)、全校児童が体育館に集まり、4年生が連合音楽会に向けて頑張った2曲を鑑賞しました。

4年生は、運動会の練習と並行するという厳しいスケジュールの中、一つ一つのフレーズをコツコツ練習し、素晴らしい合唱と合奏を完成させました。合唱曲は「フレンドシップ」、合奏曲は「名探偵コナンのテーマ」です。

本番は、4年生全員が一つにまとまり、緊張しながらも一人一人が自信を持って表現をした、すばらしい発表になりました。

連合音楽会は、私が小学生の頃から続いている、甲府市の伝統的な活動です。5・6年生は、自分たちが頑張ったときのことを思い出し、1～3年生は、やがて自分たちもあの舞台に立つことをイメージしたと思います。数年前から、映像をVTRに収めたものを甲府市の西ブロックの小学校同士がお互いに視聴することで交流を深める形を取っています。4年生としてとても大きな行事であり、学級や学年が一つになる大切な取り組みですが、この取り組みをいつまでも大切にしていきたいと思えます。



狂言ワークショップ

12月10日(水)、YCC文化ホールで行われた「狂言ワークショップ」に6年生が参加しました。文化庁の事業で毎年行われていますが、小ホールの舞台に狂言を上演する能舞台を作り、狂言の説明を聞き、体験ができるものです。



6年生は、国語で「古典芸能の世界 狂言「柿山伏」を楽しもう」という学習をします。古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して言葉の響きやリズムを楽しみます。教室で資料映像は見ますが、実際に動きを見たり音を聞いたり息づかいを感じたりする経験は、とても貴重なものです。

当日は、前半は「柿山伏」を鑑賞し、後半は各学校の代表児童が舞台に上がり、狂言の独特な言い回しなどを実演するワークショップを行いました。ワークショップでは、所作とセリフを覚え、舞台と客席で楽しく掛け合う場面がありました。子ども達は狂言を身近に感じながら、楽しく体験することができました。

PTA連合会全体研修会に参加して

12月14日(日)、総合市民会館において「令和7年度甲府市小中学校PTA連合会 全体研修会」が行われました。この研修会の企画・運営には本校の教育研修部の皆様も携わってくださり、当日も、PTA役員さんを中心に多くの保護者の皆様にご参加いただきました。

今回の講演は、心理カウンセラーの矢部裕貴さんによる「子どもの可能性を伸ばしたい、そんな全ての大人の思いに答えます!! ～“いい親”じゃなくて“ちょうどいい親”になるコツ～」というお話でした。

矢部さんは、親が感じている子どもへの想いや不安などを、心理カウンセラーや塾講師としての経験や、脳科学の視点などの多くの切り口から解き明かしてくださいました。内容の一部をご紹介します。

◆子ども達の行動を変えたい場合は、子どもが持つイメージを変える必要がある。イメージは、過去の結果や言葉がけに大きく影響されるものである。投げかける言葉で行動が変わり、結果が変わる。

話題① 脳は「否定語」を理解しない

廊下を走る子ども達へ注意を促すために、「廊下を走ってはいけない」というポスターを掲示することが多い。人間の脳は否定語の前にある単語を強烈に意識するので、子ども達の脳には「走る」をイメージしてしまう。そういう場合は「廊下をあるきましょう」と掲示することで子ども達の脳に「歩く」というイメージが残り、行動にうつすことにつながる。

話題② 結果を変えたいなら、行動を変えるだけでは不十分。すべての源である「イメージ」を変えることが、唯一の根本的な解決策

勉強することに対してマイナスなイメージをもつ子どもは勉強することを嫌がる。そういう子どもにいくら「勉強なさい」と言っても、さらに嫌がるだけ。

勉強の中で少しでも良いイメージがあるもの(教科)から取り組むようにして、良い結果を経験させ、良いイメージを持たせる。そういった成功体験は、少しずつ他のもの(教科)に広がっていく。

アクティブキッズ促進プログラム

12月19日(金)、県教育委員会保健体育課の指導主事や県内スポーツクラブのコーチの皆様をお迎えして、1・2年生が、ボールを使った楽しい運動を体験しました。子ども達は、体育館に登場したゲーム感覚満載な4つのブースをまわりながら、ボール運動につながる動きづくりを楽しんでいました。



運動の楽しさを実感した子ども達が、日常生活においても様々な運動に親しみ、結果としてバランスのとれた体力向上につながることを期待しています。